



## グループ通信

発行/ふれディアグループ本部 編集部  
〒351-0022 埼玉県朝霞市東弁財1-3-4  
朝霞台駅前ビル8F

全国相談窓口 ☎0120-116-017



こんにちは、ふれディア通信編集部です。 秋も終わりに近づき、冷え込む日が多くなってきました。 風邪などひいていませんか？ 寒さもそうですが、お肌が乾燥する時期でもありますね。 「顔がカサカサするなあ、かゆいなあ…」と思った時、自分の顔を確かめると思いますが、皆さんは1日に何回くらい鏡を見ますか？ 年齢や性別によって違いはありますが、約半数の人は1日1～3回は鏡を見るそうです。 主に女性はお化粧をするときには、必ず見ていることでしょう。 性別関係なく、身だしなみのチェックに鏡は欠かせません。 このように現代では日常にすっかり溶け込んでいる鏡ですが、昔は神聖なものだと考えられていました。 確かに、1枚の板のようなものをはさんで奥に自分の姿などが広がる光景は、もう一つの世界が存在するようで、ちょっと不思議に感じるかもしれませんね。 そんな神秘的とも言える鏡は、姿を映すだけでなく、魔よけとしても使われていました。 邪気や悪いものを反射する、という意味合いからでしょう。 こうした鏡は、実は、いつどこで誕生したのかについてはわかっていません。 ただ、四大文明のあたりでは、すでに鏡は存在していたようで、日本には弥生時代に伝わってきました。 当時は、とても貴重なもので、素材としては金属を磨いてできたもの。 現在のような、硝酸銀溶液を使用したガラスの鏡を作る技術は、19世紀のドイツで確立されました。 そのおかげで、今の私たちは、自分だけでは決して見ることでできない自分の姿を、鏡で見ることができています。 ただし、左右反転しているのも、他人からみた自分の顔と、鏡で見ている自分の顔は違うんですよね…。 鏡を見ているときの私たちは、人間の脳の働きで、2割増しに見ているという話もありますよ。 果たしてどちらが真実なのでしょう（笑） 11月11日は鏡の日。 数字が左右対称になるのはもちろん、漢字の十一も縦に見れば左右対称なので、この日が鏡の日になりました。 なお、11月30日も「11（いい）30（ミラー）」＝「いい鏡」という語呂合わせで、鏡の日なのだそうです。 11月に2回ある鏡の日。 本当の自分ってどんなものだろう？ と、たまにはじっくりと鏡をのぞきこむのも面白いかもしれませんね。



## 平成の重大ニュースプレバック!



## 平成14年(2002年)には何があった!?

この年は、北朝鮮の平壤で初の日朝首脳会談が実現した歴史的な年でした。 当時の小泉純一郎首相と金正日朝鮮労働党総書記の会談を機に、拉致被害者5人が帰国を遂げました。 また、サッカー界では初の2か国共同で日韓Wカップが開催されます。 中でも注目を集めたのが、イングランド代表のデビッド・ベッカム選手です。 プレーもさることながら、そのルックスに憧れる人が続出して、宿泊先のホテルでは出待ちのファンで人だかりに。 さらに“ベッカムヘア”と呼ばれる髪型も流行して、マネする男性が街にあふれました。 また、野球界では“ゴジラ”こと松井秀喜選手がニューヨークヤンキースと契約した年でした。 その後、2012年に現役を引退し、現在はヤンキースの特別アドバイザーとして海外を拠点に活躍しています。



## その他のニュース

小柴昌俊さんと田中耕一さんがノーベル賞受賞/  
『ハリー・ポッター』ブーム/携帯電話の「写メ」が人気に

